5月22日号
第2628号
2003年(平成15年)
(昭和24年5月10日　第三種郵便物認可)

海上保安新聞

発行所
財団法人　海上保安協会
〒104-0045　東京都中央区築地　5－3－1
電　話　03－3542－3678～9
FAX　03－3541－9085
E-mail:kaiho-shinbun@jcga.or.jp
(毎週木曜日発行)
購読料　月極610円　送料共

創業大正八年　伝統と技術を誇る
日本光機工業株式会社
取締役社長　上　野　紘
本社及川崎工場　川崎市幸区下平間２９０
電話（０４４）５２２－６３４１
横浜工場　横浜市金沢区福浦２－７－１８
電話（０４５）７８３－６５８１

鹿児島　北朝鮮工作船を初公開

小舟、武器類も

公募の3千人が見入る

北朝鮮工作船が5月17、18の両日、工作船を保管している鹿児島市の鹿児島ドック鉄工㈱で、初めて一般に公開された。搭載されていた小舟、水中スクーター、武器類も同時に公開された。

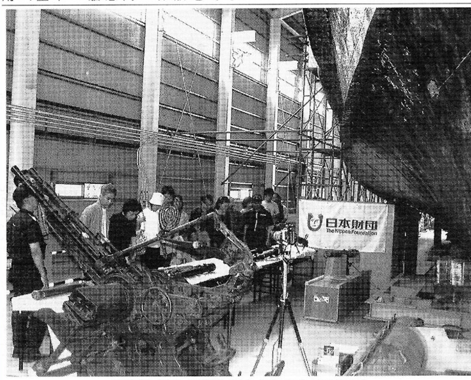
㈶海上保安協会が日本財団と十管本部の協力を得て公開したもので、公募の3000人を含む3209人が見学した。十管本部は混雑を防ぐため、会場近くにある県のサンラフプール駐車場を借り、見学者をシャトルバスでピストン輸送した。

会場内には昨年9月の工作船引き揚げ作業、偽装工作、搭載武器などが分かるように大きなパネル10点で紹介した。工作船や小舟を見た入場者たちは「工作船の実態が分かった。海上保安庁の仕事が理解できた」「自分たちも危機管理を高めないといけない」と感想をもらしていた。工作船船体保存募金も行われた。

武器類は対戦車ロケットランチャー、14・5ミリ対空機関銃、7・62ミリ軽機関銃、5・45ミリ自動小銃、携行用地対空ミサイル、82ミリ無反動砲など12点。

工作船事件は平成13年12月22日、奄美大島沖で発生した。巡視船が戦後初の銃撃戦を展開。「あまみ」「きりしま」「いなさ」が被弾、「あまみ」の金城良武航海長ら3人が負傷した。

工作船は東京・お台場の「船の科学館」でも5月31日から9月30日まで、一般に無料公開される。公開時間は、31日は午後1時から6時。通常は午前10時から午後5時。土・日曜、祝日、夏期期間は午後6時まで。



工作船（右）や武器（左）に見入る見学者たち

6カ国の長官級会合　SARSで延期

「第4回北太平洋地域海上保安機関長官級会合」は6月3日から6日まで、韓国の済州島で開催される予定だったが、延期されることになった。新型肺炎「重症急性呼吸器症候群」（SARS）の影響を懸念して韓国政府が、国際会議を当面中止する通達を出したことに伴うもの。9月初旬の開催を予定している。

同会合には海上保安庁、ロシア国境警備庁、米国沿岸警備隊、カナダ沿岸警備隊、韓国海洋警察庁とオブザーバーとして中国公安部の6カ国が参加を予定していた。主な議題は①想定される脅威に対しての警戒のあり方などの事例集の報告②交換する情報を保護するソフトに関する報告③合同机上訓練の実施――となる予定だった。

平成12年12月に海上保安庁の呼びかけで同会合が始まり、銃器、薬物の不正取引、密航、海賊、海上安全、海上環境などで連携協力していくことが確認されている。現在はセキュリティー、法執行、海上安全・汚染防止、情報交換・電気通信、漁業問題などの作業部会を設置して連携協力の具体的な検討を行っている。日本はセキュリティー部会の調整国となっている。

美しい海　守ろう

6月5日から　海洋環境保全推進週間

6月は環境月間。海上保安庁は5日から11日までの1週間、「海洋環境保全推進週間」を展開、引き続き12日から21日までの10日間、「海上環境事犯一斉取締り」を行う。

次世代を担う子供たちへの環境教育が美しい海を守る原動力となることから、海上保安庁は推進週間中、全国各地の海岸で小中学生、一般市民とともに漂着ゴミを回収、ゴミの種類と個数の分類調査を行って漂着ゴミの実態を調べる。子供たちは漂着物の観察を通じて、ゴミの適正処理が海の環境を守ることにつながっていることなどを学んでおり、漂着ゴミ調査が子供たちの海洋環境に対する意識の向上に役立っている。

全国の海岸で漂着ゴミ調査が始まった平成12年度には、26カ所で1540人が参加して43・2トンのゴミを回収した。13年度は50カ所で3708人、14年度は73カ所で5803人が参加して36トン前後のゴミを回収しており、調査する海岸も年々広がっている。分類調査の結果、日本海側や瀬戸内海では流木などの自然ゴミもあったが、全国的に見ると、ゴミの半数以上はタバコのフィルターや買い物袋、ペットボトルなどのプラスチック・ビニール類。次いで、食品トレイや使い捨て食器などの発泡スチロール、ガラスや陶器の破片など、漂着ゴミのほとんどは日常生活から発生するものばかり。

漂着ゴミ調査の結果を「漂着ゴミマップ」としてまとめてホームページに掲載している管区本部もあり、ゴミのない美しい海を守っていくよう広く呼びかけている。

また、各地の幼稚園や小中学校で、環境紙芝居や水質の簡易検査などを行う海洋環境保全教室を開催するほか、今年も小中学生を対象に「未来に残そう青い海・図画コンクール」の作品を募集する。

船舶や陸上からの廃棄物・廃船の違法投棄はやや減ってきてはいるものの、依然として後を絶たず、手口が悪質・巧妙化しているため、取締り期間中は巡視船艇・航空機でのパトロールを強化する。

全国の保安部署で水中テレビカメラシステムを活用して廃棄物・廃船の投棄に対し徹底した取締りを行うとともに、①臨海工場からの汚水排出②船舶からの油・有害液体物質の排出③排他的経済水域での外国船舶による油の排出などを取り締まる。

全国各地でクリーン作戦を展開

環境月間に併せ、各地で海洋環境保全のためのクリーン作戦が展開される。

五管区では国土交通省近畿地方整備局や大阪湾沿岸の各自治体、漁業関係者など76機関・団体と協力して「大阪湾クリーン作戦」を実施。大阪湾の水質浄化や環境保全の大切さを呼びかけるとともに、海岸や防波堤付近の海岸清掃や海水浴場・釣り場などの海底清掃を集中的に行う。

20回目の今年は近畿地方整備局河川部も初めて参加するため、大阪湾に流入する河川流域の清掃も併せて行い、大阪湾の海洋環境の改善を図る。

六管区では「瀬戸内海・宇和海クリーン作戦」を展開する。海洋環境について考えてもらおうと一般市民から募集した標語335点から、愛媛県松山市の会社員・中島悦子さん(25)の標語「誰よりも　あなたを見ている　瀬戸の海」が本部長賞に選ばれた。中島さんの標語はポスターとして各地に掲示され、海洋環境保全の大切さを訴える。

ロシア警備艇と合同訓練

6月4日　一管本部

一管本部は6月4日、小樽港沖でロシア国境警備庁太平洋地域局（ウラジオストク）と合同訓練を行う。一管本部と太平洋地域局との合同訓練は昨年8月、ロシア・サハリン州のコルサコフ港沖に続き3回目。ロシア警備艇は平成13、14年の2回、観閲式参加を兼ねて、横浜海上防災基地を訪れているが、小樽港への入港は初めて。

訓練に参加するのはポーク級警備艇「ソーカル」（520トン）とスベトリヤク型警備艇「コルサコフ」（320トン）。海上保安庁からはヘリコプター搭載型巡視船「そうや」、巡視船「しれとこ」と「さろま」、巡視艇「やぐるま」が参加する。

薬物・銃器密輸などの不法行為船舶に対する共同捕捉訓練を予定しているが、細部は今後決める。

ロシア警備艇は3日に小樽港に入港。訓練のほか意見交換会も開かれ、6日に帰国の予定。

潮流

▼新型肺炎「重症急性呼吸器症候群」（SARS）が猛威をふるい、世界の人的交流を妨げている。海上保安庁関係だけでも、観閲式に参加する予定だった中国艦艇の訪日が中止になり、北太平洋地域海上保安機関長官級会合も延期に追い込まれた▼国際学会、スポーツ大会、演劇公演……。様々な分野で影響が出ている。その状況下で厚生労働省は、台湾医師の日本での行動について、固有名詞を出して情報公開した。混乱はあるだろうが、正しい態度だ。SARSがこれだけ広がった原因は、発生確認後の情報公開が余りにも不十分だったことにある▼鹿児島保安部は関係機関と協力して「鹿児島港にSARSを上陸させるな勉強会」を開いた。「官」だけの勉強会を考えていたが、「現場で実際に対応する人たちにこそ必要な会なのだ」と官民一体の会合になった。縦割り行政から横への連帯。「災い変じて福となす」「ピンチはチャンス」にしていかなければならない。もちろん、海上保安官の安全を十全に行いながら。

週間海難速報

5月12日(月)～5月18日(日)

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は10隻、28人だった。

種類別	隻数
衝突	34
乗り揚げ	7
転覆	3
火災	1
爆発	0
浸水	1
機関故障	8
推進故障	2
舵故障	0
行方不明	1
その他	4
計	61